

**Kanagawa  
Library  
Association**

巻頭言 神奈川の図書館の次世紀に向けて・・・・・・・・・・・・・・・・	1
特集：神図協 90周年 神図協 90年の歴史を協会報から振り返る	2
研修会レポート「神奈川県立川崎図書館見学研修レポート」	6
連載：わたしのイチオシ「開館30周年記念事業 特集展示を考える」	6

**神奈川の図書館の次世紀に向けて**

企画委員長 沖間 俊明  
(横浜市中央図書館)

神奈川県図書館協会創立90周年を迎えるにあたり、心からお祝いの意を表します。

今回の90周年記念事業では、各委員会において、早くからご準備をいただきました。

地域資料委員会では、郷土資料のDVD資料化を実現するためにご尽力いただきました。

研修委員会では、90周年記念にふさわしい、すばらしい講演会を企画いただきました。

広報委員会では、各図書館のご協力をいただいたスライドを上映するほか、ノベルティの作成・配布を企画いただくなど、各委員会のご努力が実を結び、90周年記念事業を迎えられることになりました。改めて皆様の取組に敬意を表します。

また、新しい取組として、これからの図書館を担う司書の人材育成を協会としてさらに支援するため、有意義な研修に費用を負担して派遣できるようにすることといたしました。具体的な方法については、企画委員会の担当委員により、現在検討中ですので、いずれお示しできると思っております。ご期待ください。

これらの成果を、来る100周年につなげていけるよう、県内のそれぞれの図書館が、創意工夫の中で、この成果を生かしていただければと願っております。

さて、図書館をはじめ社会教育施設の役割は、現在の社会情勢の中で、変革を求められており、法律的な位置づけを含め、様々な場面で議論がなされております。

こうした中で、改めて図書館の役割についても、図書館自らが明確にしていくことが必要になってきていると思います。

神奈川県図書館協会も、100周年の次の世紀に向けて、情報交換や研修、情報発信などの取組を通じて、神奈川県内の図書館とそこで働く司書をはじめとした職員が、より力を発揮していけるよう、各図書館と連携して活動していくことが求められているものと考えております。

最後になりましたが、記念事業への皆様のご尽力に重ねて敬意を表するとともに、今後の活動へのご協力を改めてお願い申し上げます。

## 特集 神図協 90 周年

# 神図協 90 年の歴史を 協会報から振り返る

今年は神図協 90 周年です。これを機会として協会報に焦点をあて、第 1 号から 70 周年あたりまでの歴史を紐解きました。

(神奈川県図書館協会事務局)

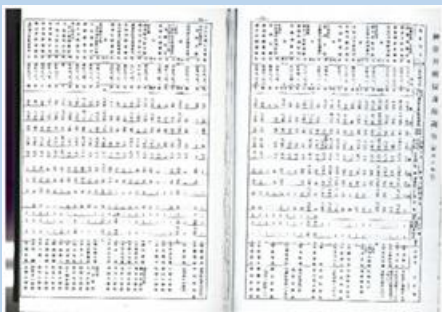
### 協会報記念すべき第 1 号！

昭和三年創設以来活動休止の状態であった、協会の門出を図書館令改正に絡めて喜び、決意を示した文が寄稿されている。

「總ゆる階級の人、總ゆる職業の人に働きかけてその智徳を啓發し、精神生活の糧を與へてやる——、修養せんとしても機關を有せざるものに機會を與へ、良書を與へてやる——、圖書館は向上心に燃ゆる人々にとって生命の泉であると信ずるのであります。」



神奈川縣圖書館協會報 第一號 表紙  
(昭和 8 年 9 月 30 日発行)



神奈川縣圖書館協會報 第二號  
神奈川縣圖書館調査 (昭和八年度)

### 「神奈川の図書館」のルーツが・・・

現在の「神奈川の図書館」の前身にあたるものか。記載事項は次のとおり。

蔵書冊数、閲覧冊数、開館日数、閲覧人員（前年度延人員、一日平均）予算、巡回文庫、館員、館長名、所在地。

小学校の図書館や文庫なども記載され、見開き 2 ページに渡って掲載されている。

### 学校教育を支援するために。

小學國語讀本卷九第十七課に図書館の一課が新たに加えられたのを機会に、図書館を使った授業案を広く募集している。

入賞者には、賞金も支払われたようで「一等一名二〇圓、二等一名一〇圓、三等三名一人五圓宛」とあり、第四〇號(昭和十二年六月一日発行)には、「三十四篇」の応募があったことや審査の結果などがトップページに記載されていた。



神奈川縣圖書館月報 第三八號 表紙  
(昭和 12 年 4 月 1 日発行)

## 貸出文庫の始まりに喜びと決意を！

金澤文庫が音頭を取る形で、貸出文庫が始まったことを喜ぶ記事が掲載されている。担当職員について紹介されるなど微笑ましい一文も・・・

「貸出文庫の利用による効果は、之が受給当事者の運営如何にあることで、各位に於てはあらゆる機会を促へ、あらゆる方法を以て之を一般公衆に利用せしめ、本縣文化の向上を目指して、萬全の策を採られる様努力して頂きたい。」



神奈川県図書館月報 第七六號 表紙  
(昭和 15 年 6 月 1 日発行)



神奈川県図書館月報 第九八號 表紙  
(昭和 17 年 4 月 1 日発行)

## 激化する戦争の影で・・・

創刊から9年続いた協会報が休刊する時の挨拶が掲載されている。休刊の理由に「戦争」が色濃く影を落としており、歴史を感じさせる。また一方で「嬉んでお國の役に立つ本誌を送(原文は旧字)る氣持である。」と書きながらも「一編輯者の私情(原文は旧字)としては流石は淋しい氣持でいつぱいだ。」と書かれており、当時の編集者の心境が吐露されている。

「今回其の筋に於て時局下縣下出版物の整理統合を斷行せられることとなり、本誌もその趣旨を体して大東亞戦争完遂(原文は旧字)のための國策に順應し、今號を限りとして休刊することとなった。・・・(部分省略)・・・今回の休刊は時局のためまことに止むる得ざる事情(原文は旧字)によつて之を斷行するものであり、今後は他の事業の方面に於て、協會自体の發展を更に一段と擴大せんとするものである。」

## 戦争の爪痕の残る中での再結成。

終戦から5年後、協会が昭和22年に再び発足してから3年後の、最初の協会報。未だ戦争の爪痕が残る中、社会教育の充実を掲げ、活動への決意がたくましく記録されている。

「不幸な戦争のため、一時中絶したわが神奈川県図書館協會は、終戦後復活再発足した。休眠状態にあつた各地圖書館も新しい息吹をもつて活動を展開した。今まで圖書館のなかつた地區にも、民主的な圖書館運動が盛りあがってきた。これは當然のことであつて圖書館こそ、文化活動の中心であらねばならないのである。」

「この館報を通じて、お互の経験を分かちあい情報を交換し、研究を發表し、手に手をとつて、向上進歩の道(原文は旧字)を歩もうとするためである。」



神奈川県図書館報 第一號 表紙  
(昭和 25 年 6 月 20 日発行)

## 盛大な、協会設立 30 周年記念式典。

協会の 30 周年を記念して、記念祭が催されている。

「神奈川県図書館協会三十周年記念祭は、菊の花薫る十一月六日、神奈川県立音楽堂において、内山神奈川県知事をはじめとする多数の来賓、千名をこえる一般来場者を迎えて、盛大に開催された。」

プログラム

- 第 1 部 物故者追悼の会
- 第 2 部 文化講演
- 第 3 部 国際短篇映画祭

第 1 部の追悼の会ではこれまで図書館活動に尽力し亡くなられた方々の功績を称え、遺族の方もお招きした盛大な会となったようだ。また、現在奮闘する職員や各団体に対しても、表彰状や感謝状が贈られている。



神奈川県図書館協会報 第 33 号 表紙  
(昭和 34 年 12 月 21 日発行)



神図協会報 No. 100 表紙  
(昭和 52 年 1 月 1 日発行)

## 協会報 100 号達成の記念に . . .

協会報が復刊されて 100 号目の記念号。

「協会報を考える」というテーマで相模原市立図書館で座談会が開かれている。

協会報に載せる内容等だけではなく、協会報をもっとよくしていくための仕組みづくりなど、それぞれの立場から様々な意見が寄せられ、見開き 2 ページ半の大ボリュームになっている。

## 協会 60 周年は協会報も特別に。

創立 60 周年記念大会のスナップが掲載されている。この時の協会報は、紙をいつものより厚いクリーム色のものにするなど、協会報でも特別感を出している。永年勤続表彰の対象者は 64 名。

「会場に用意された 200 席の椅子は殆ど埋め尽くされ、後方であつたまま聴き入る人も見受けられた。」

展示コーナーも設け、公共図書館のおはなし会などで使われている人形劇用の人形やパネルシアター、協会加盟機関の編刊する目録や冊子類、ビデオによる各図書館の活動の様子などが紹介された。



神図協会報 No. 148 P. 15  
(平成 元年 4 月 1 日発行)



神図協会報 No. 155 表紙  
(平成 3 年 1 月 1 日発行)

## 図書館法の制定 40 周年を記念して・・・

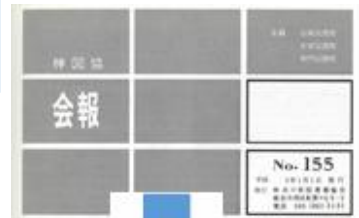
図書館法制定 40 周年記念式典が行われている。「図書館の昨日・今日・あした」をテーマとして浦安市立図書館の先進的な取り組みについて、映像を交えての講演があり、第二部の勤続表彰では 70 名もの職員が表彰され、盛況さが伝わってくる。

## 会報のタイトルロゴを公募！

協会報のタイトル・デザインをあなたの手で！！

「創刊以来、会員の皆様に親しまれてきた協会報。現在の表紙になるまでに何回か「顔」を変えているのをご存知ですか？」

次の号で 17 年ぶりにタイトル・デザインが変更されました。この時に原案を出したのは、当時横浜市港南図書館にお勤めだった方。



神図協会報 No. 162 巻末  
(平成 4 年 10 月 1 日発行)



神図協会報 No. 178 表紙  
(平成 8 年 10 月 1 日発行)

## インターネットの台頭。

特集◇図書館とインターネット

インターネットツールの台頭とともに、会報でもインターネットや PC ツールに関する特集を組んだり、インターネット研修を行っている様子が窺える。

## 協会 70 周年の記念式典。

記念式典での会長の挨拶にも、環境の変化へと対応していこうとする図書館の姿勢が見える。

「新しいメディアの普及、国立国会図書館関西館、図書館法の改正作業等についてふれ、協会としては、こうした動きをしっかりと見据えながら、21 世紀をすばらしい図書館の世紀とするよう努力していきたい」

プログラム 第 1 部 記念式典  
第 2 部 記念講演  
第 3 部 パネルディスカッション



神図協会報 No. 187 表紙  
(平成 11 年 4 月 1 日発行)

## 研修会レポート 「神奈川県立川崎図書館見学研修レポート」(平成30年6月26日実施)

6月26日(火)神奈川県立川崎図書館にて、平成30年度神奈川県図書館協会職員研修を開催した。本研修では、施設の概要説明、見学、質疑応答を行った。

神奈川県立川崎図書館は今年5月にかながわサイエンスパーク内に移転開館した。この移転に際し、「科学と産業の情報ライブラリー」から、「ものづくり情報ライブラリー」へとその位置づけを改めた。かながわサイエンスパーク内にある図書館、事務室、書庫の他に、相模原市にも外部書庫がある。図書館は「Research」「Inspiration」

「Conference」「Study」「Liaison」の5つの機能を有しており、移転前からの社史や工業規格のほか、他団体と連携したサービスや電子ジャーナルなど、新たなサービスも提供している。

移転後は、立地の違いから利用者層も変化し、以前からの利用者も来館するが、目的をもって利用する利用者が増えたとのことである。

内装について、窓側がキャレル席になっており、人気があるとのことであった。総合カウンターの正面には電子ジャーナルやデータベースが利用できるパソコンがあり、申込書を記入することで利

用できる。また、社史のコーナーは移転前より広がったと説明があった。神奈川県立川崎図書館が社史を収集していることが少しずつ広まってきているとのことだった。

西棟から、1階と2階の渡り廊下でつながっているR&D棟には、事務室と書庫がある。西棟の図書館で書庫出納の依頼があると、この事務室にファックスが送られ、それをカート等で運び、総合カウンターでは番号札を使ってそれを提供している。出納希望の資料が多く運びきれない場合に対応するため、書庫には机、複写機が設置されており、そこでも閲覧できる。

再開館して間もないこともあり、参加者の関心も高く、移転前と比べる人も多いようである。

ものづくりに特化した図書館ということで、立地の変化等に伴う利用者層の変化にも対応し、明るく、長時間の調べものがしやすい環境になっていた。既存の建物内への移転とのことで耐荷重の問題等も挙げられていたが、新たな利用者はもちろん移転前からの利用者にも受け入れられているようで、学ぶところも多かった。

(茅ヶ崎市立図書館 飯樋美鳩)

## 連載 わたしのイチオシ 南足柄市立図書館「開館30周年記念事業 特集展示を考える」

当図書館は1988年7月10日に開館し、今年で30周年を迎えました。30周年を記念した図書展示として「30年間で一番読まれた本は…?」(一般書)と「30歳になった絵本100選」(児童書)という特集展示を行いました。

特集の企画をし始めたのは前年の冬からです。「“30年”という時間を感じてもらえるような展示をしたい!」という想いがあり、一般書展示は過去30年間で貸出回数上位のものを類毎に展示しました。

### 南足柄市立図書館開館30周年記念事業



講演会	
6月7日(木)	市立図書館開館30周年記念講演会「絵本のチカラ!」 講師:(株)絵本ナビ編集長 磯崎園子氏
特集展示・企画	
5月17日(木) ~8月31日(金)	「30歳になった絵本100選」(児童書展示)
5月17日(木) ~8月31日(金)	「教えて、あなたのお気に入り絵本」投票 (児童書人気投票)
6月1日(日) ~8月31日(金)	「30年間で一番読まれた本は…」(一般書展示)
今後の予定	
10月2日(火)	「教えて、あなたのお気に入り絵本」結果発表
11月25日(日)	第8回VIVA!みんなあつまれ!!としょかんまつり ・市立図書館30周年記念特別パネル展示 ・紙芝居&アコースティックギターライブ など

苦慮したのは児童書です。当初、児童書も一般書と同じように貸出回数上位の本を展示すればと思っていましたが、上位は「ノンタン」や「パオちゃん」など回転率の高い定番児童書で“30年”という年月を感じられるとはいえませんでした。悩む中、児童書担当の一人から「ちょうど30年という月日は子どもだった人が成長して親になる。その親が小さい頃に親に読んでもらった絵本を展示すれば3世代で楽しめる展示になるのでは」と案ができました。そこで、出版から30年になる絵本から「今でも読み続けられているもの」、「祖父母・親世代に再び読み返してほしいもの」、「今の子ども達に読んでほしいもの」を100冊選書し展示しました。30周年だからこそその展示にできたのではと思います。

このほか30周年記念事業として様々な事業を行っています。今後も「としょかんまつり」で30周年にあわせた催しを行います。より多くの方にご来館いただけるよう準備を進めてまいります。

(南足柄市立図書館 佐藤 友佳)